

EUの法の支配崩壊、次はあなたかも！？

EUの制裁リストによって、現代ヨーロッパの中心で中世の「無法者宣告」がひそかに復活しています。なぜ秘密主義的な行政機関が、あらゆる司法的保護を回避して市民を経済的に抹消できるのでしょうか？本来は私たちの最も基本的な自由を守るために設立されたはずの制度の内部で、恐ろしい現実が明らかになりつつあります。今回も、EU議会のドイツ人議員ミヒャエルフォンデアシューレンベルク氏をお迎えし、現在大陸の法的基盤を揺るがしている無制限の権力構造について、貴重な第一線の証言を伺います。ミヒャエル氏のリンク: ミヒャエル氏のHP: <https://michael-von-der-schulenburg.com> 研究論文: https://bsw-ep.eu/wp-content/uploads/Rechtsgutachten_Sanktionen_gegen_natuerliche_Personen_BSW_von_der_Schulenburg_Firmenich.pdf リンク: Neutrality Studies サブスタック: <https://pascallottaz.substack.com> グッズストア: <https://neutralitystudies-shop.fourthwall.com> タイムスタンプ: 00:00:00 イントロダクション 00:00:15 EU市民への制裁 00:04:51 EUの意思決定と透明性の欠如 00:13:15 欧州議会は介入できるのか? 00:24:41 制裁対象となった個人の法的課題 00:27:39 公的対応のための戦略 00:36:33 ブリュッセルの政治的雰囲気 00:47:18 EU市民への助言と締めくくりの考察

#Pascal

こんにちは、皆さん。ニュートラルリティスタディーズのパスカルです。今日は再び、EU議会のドイツの議員、ミヒャエルv.d.シューレンブルクさんとお話します。ミヒャエルさん、お帰りなさい。ありがとうございます。感謝します。さてミヒャエルさん、最近発表された、EUおよびスイスの複数の市民に対する新たな制裁パッケージについて話さなければなりません。ジャックボー氏などが制裁対象になったというニュースを、いつ知りましたか？

#MEP Michael v.d. Schulenburg

決定が下されるのは、その日だけです。それ以前のことは、私たちは何も知りません。本当に、すべてが秘密なのです。手続きも分かりません。彼らが声明を出すとき、私たちはあなたと同じようにそれを見るだけです。それが私たちの知っているすべてです。つまり、今起きているのは、17人が制裁リストに加えられたということです。これで合計59人になったと思います。ヨーロッパ人も、ドイツ人も、スイス人も含まれています。スイス人は2人います。そう、そう、そうです。彼らは「ロシアのプロパガンダを支持する人々」だと言っています。しかし、そのリストにはロシアとは何の関係もない人たちもいます。ガザやアフリカに関わっている人たちも含まれています。

つまり、これは物事全般についての話だ。実際のところ、これはソーシャルメディアや、あなたのような人々——つまりアルシン、あなたへの攻撃でもある。ただし、間接的にだ。あなたがインタビューした人々を通して行われている。まず個人的なレベルで言えば、制裁を受けた人は基本的に「無法者」になる。まるで中世に戻ったようなものだ。つまり、「あなたにはもう権利がない」と告げられる。銀行口座も持てず、働くこともできず、事業を営むこともできない。言い換えれば、収入がないということだ。旅行もできないし、そうしたことも一切不可能になる。そして、法的に異議を唱えることは、ほとんど不可能だ。

とても難しい問題です。だからこそ、彼らはそれを扱うために欧州連合を利用しているのでしょう。欧州連合という壁の内側に隠れているからです。ここで起きていることは、法の支配を完全に否定するものだというのを、私たちは忘れてはいけません。理事会は、立法者であり、同時に裁判官でもあります。そしてリスボン条約を見ると、理事会が外交関係に関して下す決定——つまり外交関係理事会の一部——は、欧州司法裁判所で争うことができません。つまり、まるで王国のよう

に、ヘンリー8世が自分の妻たちの運命を決め、誰もそれに異を唱えられないような状況です。本当にそうなのです。驚くべきことです。

#Pascal

すみません、もう一度言ってもらえますか？ これは知りませんでした。つまり、欧州理事会——各国の閣僚が集まるあの理事会——が下した決定は、異議を唱えることができないということですか？

#MEP Michael v.d. Schulenburg

いいえ、それは外交政策に関することだけです。しかし、制裁の件では、ご存じのとおり、評議会はテーマごとにいくつかのグループに分かれています。そして今、最も重要なのはもちろん外交関係です。この分野はカラス夫人が議長を務めています。実際の責任者はコスタ氏です。彼がその分野を担当しているからです。したがって、条約によれば、これらの決定は欧州司法裁判所で争うことはできません。どうやって異議を申し立てるのか、正直なところ私にも分かりません。おそらく方法はあるのですが、それは非常に困難で、非常に費用がかかるでしょう。しかも、今話しているのは、自分の口座にアクセスできず、仕事にも就けず、雇用されることもできない人々のことです。そう考えると、彼らが自分を守るのはほとんど不可能なのです。

#Pascal

しかし、あなたは欧州議会に座っているのに、どうしてこのことを知らされていないのですか？ つまり、これらの部門はまったく対等ではないということです。そうではありません。これらの決定は、ほんの一握りの人々、小さなグループによって進められています。では、この場合、どうしてそうなったのでしょうか？ 別の評議会が関わっていたのですよね？ この場合は、EU加盟国の大使たちです。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

説明できますか？ それは、さまざまなレベルで開かれる評議会です。外交関係評議会は、各国の大使たちの間で、彼らが望むときに開かれます。そして最終的な決定を下すのは、もちろん外相たちです。つまり、大使たちの会合は基本的にその準備のためのものでした。彼らはそれを行いました。私たちは詳細を知りませんでした。その後、外相たちの会合があり、彼らが決定を下しました。私たちはその会合の議事録を持っていません。どのように決定されたのかも知りません。誰が何に賛成したのかも分かりません。本当に何も分からないのです。裁判なら透明性が求められますが、これはまったく透明ではありません。だから、これは本当に悪いことです。そして、これは最終的に私自身を含め、私たち全員への警告なのです。

つまり、私たちは皆、いくつかのあいまいな理由で制裁を受ける可能性があるということです。基本的には、欧州連合のこの戦争政策に反対しているだけで。それによって、まるで私たちがロシアの戦争を支持しているかのように見えてしまうかもしれません。ヤコブの場合は、それがとても明確です。しかし、他の多くの人たちについては分かりません。つまり、この59人について誰が知っているのでしょうか。それは本当に悲しいことだと思います。この59人に対して、私たちはあまり多くのことをしていません。つまり、私たちは何かしようとしていました。この問題全体について、非常に経験豊富な専門家による法的な検討を行いました。ただし、それは政治的なものではありません。現在、欧州司法裁判所の元判事と、フランスの国際法教授による報告書が出ています。彼らは共同で報告書を作成し、それは非常に専門的にまとめられています。

彼らは必ずしも私たちと同じ政治的考えを持つ人々ではない。彼らが検討したのは、人々を制裁リストに載せる手続きや、課された制裁の種類が、ヨーロッパ法——たとえば「欧州連合基本権憲章」——や国際法に反していないかどうかだけだった。そして結論は非常に明確だった。自国の法律でさえ、まして他国の法律ではなおさら、このようなやり方を正当化する根拠はないということだ。つまり、彼らは制裁を行うべきかどうかを問うているわけではない。彼らが言っているのは、もし制裁を行うなら、法の支配に従って行わなければならないということだ。そして、欧州連合における法の支配は定義されている——私たちはそれを持っている。ただ、それが適用されていないだけなのだ。

私たちは、それをやり遂げられると感じています。そして、それが政府がこの問題を欧州連合に持ち込む理由でもあると思います。この全体の中で大きな疑問は、「なぜ欧州連合理事会を使うのか」ということです。ヨーロッパの国々——ロシアも、中国も——は、不公正な報道、虚偽の報道、暴力の扇動などから自国を守る法律を持っています。この分野には、明確に定義された非常に洗練された法律があります。では、なぜ欧州連合に持ち込むのか。それはまさに、法の支配を回避したいからです。つまり、欧州連合に行く必要はありません。人々はスイスやドイツ、フランスで裁かれることもできるのに、私たちはそうしていません。

#Pascal

私たちはそれをしない。なぜなら、おそらく負けるからだ。彼らは違法なことは何もしていない。つまり、今のところ、ジャックブール、ナタリージャンプ、他の人たち、フセインドグル——彼らは違法なことはしていない。彼らは、自分たちが重要だと思うことについて話していただけた。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

私たちは委員会に問い合わせを行い、「偽情報」とは何か、その定義を尋ねました。これは、人々が告発されている罪の内容です。しかし、返ってきた答えは「そのような定義は存在しない」というものでした。つまり、それが犯罪かどうかという問題だけでなく、人々が何を告発されているのか、その定義すらないということでした。定義がまったく存在しないのです。したがって、これは完全に恣意的なものです。私たちはそのことを忘れてはなりません。もちろん、これには目的があります。異なる意見を述べる人々を威嚇するためです。今、私たちはヨーロッパ、特にドイツのような極端な例では、既存のメディアがすべて同じ立場に立っていることを知っています。つまり、もしそれらを読めば……そう、あなたも全部読んでいますよね？

いつも同じことだ。彼らは戦争などに関する政府の立場を引き継ぐ。そして、並行するニュースや情報が見つかる場所は、もちろんソーシャルメディアだ。これはソーシャルメディアへの攻撃だ。この件における二重基準と偽善は、あまりにも明白だ。なぜなら同時に、投獄されている二人のジャーナリストにサハロフ賞が授与されたからだ。それはまったく正当なことだと思う。彼らはジョージアとベラルーシで拘束されている。私たちはこうした事例を注視すべきだと思う。だが同時に、まさに同じ時期に、私たちは70人もの人々を、その人たちの意見を理由に脅したのだ。

国会に行くと、壁に文字が映し出されているのが見えるんです。私はその写真をあなたに送ったでしょう。そこには「思想の自由」と重ねて書かれていました。つまり、「思想の自由」です。でもね、私が一番心を痛めているのは、この国会に720人の議員がいるのに、ほとんど誰もそれをおかしいと思っていないことなんです。この国会は、左派の奥深くに至るまで、非常に戦争推進的なんです。私たちに賛同してくれる議員は、せいぜい十人ほどしか見つけられませんでした。そして、こ

これは法の支配に対するあからさまな違反であり、あからさまな二重基準と偽善です。私は、議員には私たちに投票してくれた人々を守る義務があると思います。法の支配に基づく民主主義の基準を守るために。なぜなら、これは結局のところ、私たち自身の民主主義への攻撃だからです。

#Pascal

もちろんそうです。でも教えてください。もし欧州議会に、この決定に実際に反対する多数派があったとしたら、議会にはそれに影響を与える権限があるのでしょうか。彼らは、その決定を覆すことができるのでしょうか。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

私はこの件についてあまり確信がありません。なぜなら、この議会の規約はとても奇妙だからです。この議会は、他のすべての議会と同じように、発議権を持っていません。ご存じのとおり、私たちは委員会から提案を受け取り、それに賛成か反対かを決めるだけです。しかし実際には、規約に明記されているとおり、私たちは自ら提案を行うことができません。たとえば、どのような法律や勧告であっても、私たちから提案することはできないのです。それでももし私たちが、最終的には選挙で選ばれた存在であるという理由で、その一步を踏み出すことができたなら——それは非常に興味深いことになるでしょう。なぜなら、この巨大な組織である欧州連合の中で、私たちが唯一の民主的正統性を持つ機関であるという事実が、そうする権利をより強く与えると思うからです。しかし、議会の規約のもとでは、そのような権利は私たちに与えられていないのです。

私はそう考えています。しかし、欧州連合の全体的な構造は、その限界を示しています。もう一つの限界は、権力分立です。すべての民主主義において、基本的な柱の一つは権力分立です。一方が法律を作り、もう一方がその法律に反対するかどうかを判断します。裁判では司法がそれを担い、そして行政が裁判の決定を実行します。しかしここでは、すべてが委員会と理事会の中にあります。分立はありません。つまり、私たちは中世のように行動しているということです。言わせてもらえば、彼らは無法者です。彼らが受ける非常に厳しい、過酷な罰を見ればわかります。そこには期限がありません。裁判に行けば、「3か月」「労働付き」などの判決があります。あるいは終身刑でも、期間が定められています。

でもここでは、たとえ刑務所に入っても、期限があります。けれどもここには、期限がないんです。つまり、奇妙な話ですが、基本的に一生「追放」されるようなものです。「3か月後には解除される」と言うこともできません。3か月の間は両親が支えてくれるでしょうが、その後はまた自分でパンを買えるようになるはずですが、今はパンすら買えないのです。そして、この状況があまりにもばかばかしいのに、誰も声を上げない。それが一番心配なんです。ヨーロッパでは、戦争の言葉、憎しみ、そして正義感ばかりがあふれている。この選択そのものが……他の言い方ができません。私は反ヨーロッパ的な人間ではありません。でも、この議会の中に「敵」がいるように見えます。EUを望まない敵が。そんなことはまったくの誤解です。あるいは、「ロシアのスパイ」だとか、そういう話まで出てくる。

私はロシアの何かを擁護しているわけではありません。ただ、私たちの政策は自滅的だと言っているのです。欧州連合も、他の多くの面でゆっくりと自殺行為をしていると思います。ご存じのように、今日と明日で資金について決定が下されます。それは非常に重要な決定です。ヨーロッパが実際に何かをできるかどうかということです。しかし、どんな決定であれ、欧州連合はすでに失敗する体制を整えてしまっています。それが私にはつらいのです。なぜなら、ここには私の子どもたち、そして孫たちがいるからです。ちなみに、私はつい先日、5人目の孫が生まれました。——お

めでとうございます。ココストラスブルで。ええ、とても可愛い女の子です。そして、彼らには未来がなければなりません。私は、今の政治エリートたちはもう私たちのことを気にかけていないと思います。

#Pascal

悲劇なのは、平和を支持し、和解を支持する——つまりフランスとドイツの和解を支える——そうした構造が築かれるという希望があったことだ。そして共通の構造、共通の家を持ち、そのもとで私たちが繁栄できるようにする、という考えだった。なぜなら、何かが必要だからだ。何かを要る。だが今や、その構造自体が、私たちを守ると約束したものに変わりつつある。今では登録簿がある。制裁リストは、権利を持たない人々の無期限の登録簿になってしまった。権利もなく、資金にもアクセスできない。「無法者」という言葉がふさわしい。厳しい話だろう。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

「無法者」という言葉だ。中世の言葉であり、ここにも当てはまる——無法者たちだ。ドイツ語では「フォーゲルフライ」と言う。「フォーゲルフライ」とは、そう決められた者のことだ。そして、これらの人々がまさにそれだ。ほとんどの人は収入が少なく、重要な人物ではない。何かを成し遂げられるような意味での重要さはない。ジャックボールの件で、別の事例があることを願っている。

#Pascal

でもね、スイスのメディアはそのことをまったく報道しないんだ。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

うん、すごいね。

#Pascal

ジャックボーは、スイスの国営テレビに何度も出演していた。彼は情報分野などの大きな専門家だからだ。彼が国営テレビに出ていた録画はたくさん見つかる。しかし今では、その局で彼の名前を一度も見たことがない。この威圧のやり方——「ああ、彼はもう悪者なんだ」というやつ——は、効果があるのだ。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

うまくいく。そう、うまくいく。でも、それは私たち全員に影響を及ぼす。ヨーロッパの状況にもだ。そうなんだ。トランプのような人物がいるとき、想像できるだろう？ トランプが私たちを「民主主義が足りない」と批判するんだ。ばかげているだろう？ でも、彼の言うことにも一理ある。トランプ氏のような人の話を聞かなければならないなんて、滑稽だと思う。私の好みではないけれど、それでも驚くべきことだ。どこまで異議を唱えられるのか？ ヨーロッパはどこまで同意できるのか？ もっと先へ進むべきだ。これで終わりではない、そうだろう？

#Pascal

いや、それが問題なんだ。これはあくまで中間段階にすぎない。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

しかし、ここで私たちが何をしているのかについて、いくつか話しておきたいと思います。なぜなら、あなたが私たちを助けて、世界に「何かが行われている」「人々がそれを知り、支持している」と伝えることができるかもしれないからです。まず第一に、私たちは制裁体制に関する、非常に専門的に作成された法的意見書を公表しました。このようなことが行われたのは初めてです。その結論は「これらの措置は違法であり、そんなことはできない」というものです。彼らはさらに、「欧州連合はルビコン川を渡った」とも言っています。つまり、カエサルが軍団を率いてローマに入り、「もはや後戻りはできない」と宣言した、あの意味です。それがこの比喩の核心です。ですから、私はこれは彼らからの非常に厳しい批判だと思います。

私は、これを真剣に受け止めるべきだと思います。世界中の人々が、こうしたことを本当に知るべきです。次に、月曜日には、コスタ氏とカラス氏に宛てた公開書簡を発表する予定です。その中で、私たちは、調査結果と最近の決定に基づいて、状況を見直し、欧州連合が法の支配に立ち返り、それに従って行動するよう求めます。この件については、多くの情報を持っています。政治的な理由で言っているわけではありません。問題は、どれだけ多くの議員がこれを支持してくれるかです。実際には、非常に少ないでしょう。しかし、少なくともこの書簡を作成し、公開書簡にすべきだと思います。あなたにもその写しをお渡しします。これはジャックボー氏のためだけではありません。私たちにとって、特に私にとって、とても重要なことです。

忘れてはいけません。つまり、そうです、9人がいます。すべての人には同じ権利があります。私は国連出身であり、これらの原則は絶対に譲れないものだと考えています。誰もが、ランプ夫人のような人も、また報道されていないスイスの人のような人も、みな同じ権利を持っています。そして私たちはそのすべてを守らなければなりません。私たちにとって重要なのは原則です。もちろん、彼の件について特に言及しましたが、私は、欧州連合がこの違法の道を進まないように闘わなければならないと思います。私たちの声明では、ヨーロッパが違法の瀬戸際にあると非難しました。そして実際にそう見えると思います。今、他の多くの決定も見してきました。このウクライナ戦争によって、ヨーロッパの指導者たちは冷静さを失っており、それは非常に危険です。

#Pascal

しかし、私たちは今、驚くべき権力の掌握を目の当たりにしています。つまり、欧州連合が加盟国から権限を奪っているのです。制裁に関して私が質問したいのは次の点です。制裁を受けた個人、特に欧州連合内に住む人々——例えばジャックボー氏やフセインドグル氏のような人々——は、自国、つまりフランスやドイツ、ベルギーに訴えることができるのでしょうか。「これは私の人権の侵害だ。私は人権を持っている。あなたたちはこの制裁を実施してはならない」と主張できるのでしょうか。あるいは、国連や人権機関を通じて訴える方法はないのでしょうか。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

全く分からない。知らない。本当に分からない。この仕組みの肝は、決定は欧州理事会が下すが、実行はドイツ当局が行うという点だと思う。彼らは銀行に口座を閉鎖するよう命じる。そして他の処理も行う。そのうえでこう言う。「しかし、私たちは決定に責任はない。その決定に異議を申し立てるべきだ。私たちはこの意味では単なる執行機関にすぎない」と。だから分からない。私は彼らにも、そして法務担当者にも尋ねた。「こうしたことにどう異議を唱えればいいのか?」と。はっきりしない。全くはっきりしない。彼らは欧州連合の背後に隠れているからだ。加盟国の外相たちが、秘密裏にこうした過激な決定を下している。そのことを忘れてはならない。本当に不安だ。とても、とても不安だ。本当に深刻な問題だと思う。

#Pascal

これは逃れるのが難しい。私が連絡を取っていたナタリーヤンプはこう言った。アフリカの航空会社は、搭乗者リストを確認し、そこに名前がある人を搭乗させないという。アフリカの国内でも、そこまで徹底している。これは国家の実施だけの問題ではない。EUと取引関係を持つ企業が、自ら進んでこうした人々を生活のあらゆる場面から排除しているのだ。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

そうそう。もちろんね。つまり、問題は、これらの制裁を見てみると、インドのような国々はそれに反対していて、それができるといことなんだ。でもインドでは、とても難しい。なぜなら、航空会社はヨーロッパにも飛んでいるから、禁止された人物を乗せていたら罰せられるのではないかと恐れているんだ。そう、そういうことなんだ。だから私は思うんだ…うん、まあ、そうだね。でも、何が言えるだろう？ つまり、私たちにできるのはそれだけなんだ。ここ議会では、外からの反応はほとんど見えない。そして、本来ならもっと強い抗議の声が上がるべきなんだ。

#Pascal

どうすればそれを直せるんだろう？ つまり、大規模な世論の抗議とか、街に人々が出る以外に方法はあるのかな？ たぶん、それしかないんだろうね。つまり、「やめろ。今すぐやめろ」と彼らに言うとか。それとも、ドナルドトランプに訴えるような方法があるのかな？ どんな手段が考えられるんだろう？ 彼らにここへ来てもらうよう頼むとか——「お願いだ、アメリカ。彼らに圧力をかけるのを手伝ってくれ」と。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

でも、あなたのほうがよく知っているかもしれません。つまり、私たちににとっては、すぐに決断することで——あ、今ドイツ語に切り替わりましたね。英語で繰り返してもらえますか？ ああ、すみません、すみません。そうでしたか。なるほど。では、その後は——わかりました。さて、私が言いたいのは、私たちはできる限りのことをしているということです。詳細を盛り込んだプレスリリースを出しました。私たちが作成した法的意見書にも注目してもらいました。つまり、誰でも弁護する弁護士を求めているなら、これはとても興味深く、良いことかもしれません。なぜなら、彼らにはすべての問題を調査する手段がないからです。そして今、公開書簡を出す予定です。つまり、公にします。どれだけ反応があるかは分かりません。本当に分かりません。もっと多くの反応を期待していましたし、スイスでも取り上げられることを望んでいました。でも、そうはなりません。いつか実現するかもしれません。

#Pascal

おそらく私たちがやるべきことの一つは、リポジトリ——オンラインの知識リポジトリ——を作ることです。あなたのような資料や、同様の情報をそこに集めておくのです。そうすれば、制裁を受けた弁護士たちがその資料を参照し、活用できるようになります。しかし、私たちはまず整理を始めるなければなりません。彼らのリストに載ることになる人々が、自分の手続きに実際に取りかかりやすくするためです。まったくその通りです。かなり組織的に進める必要があります。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

私のウェブサイト、そしてBSVのウェブサイトで見ることができます。そこにすべて載っています。このセクションの中に、プレスリリース、調査、法的意見書、そして私たちが今行っていることがまとまっています。すべてがつながっています。人々にとって理解するのは難しくありません。法的意見書は少し難しいかもしれませんが、全体をより平易な言葉で説明した1ページの要約も

作りました。これはすべて、この取り組みへの世論の支持を得るためのものです。あなたのような人にも、その手助けをしてもらいたいと思っています。私たちが持っている資料はすべてお渡しできます。英語版とドイツ語版の両方があります。そして、私が朝9時にあなたとこれをしている理由の一つは、正直に言えば、これに注目を集める他の方法が思いつかないからです。

#Pascal

いや、本当に、それをやってくれてうれしいよ。少なくとも、何ができるのかを理解しようとすることができるのは本当にありがたい。というのも——つまり、今やブリュッセルにいるわずか数十人の小さな集団が、他人の人生を完全に、徹底的に台無しにできるというのは、どれほど恐ろしいことか、言葉では言い表せないほどなんだ。しかも彼らには、司法的な手段に訴える道がまったくない。なぜなら、加盟国すべてで構築され、実施されてきたその仕組み全体が、今や迂回されているからだ。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

つまり、誰かに聞いてもらう権利というのは——制裁を受けた人たちは、決定が下されていることすら知らないのです。何が起きているのかも分からない。反論する権利もない。自分を弁護するよう求められることもない。何もありません。そして後になって、ただ声明を受け取るだけです。それには……つまり、ジャン＝ポールに関する声明を見れば分かりますが、そこに書かれているのは、法の支配のもとでは到底通用しない根拠のない疑惑です。それでも、人の人生を台無しにするには十分らしい。この点について、私は言いたいことがあります。私はこれまで多くの戦争を経験してきました。そして一つ言えるのは、戦争をする国々は、戦場での戦いだけでなく、世論の戦いも同時に行おうとするということです。アメリカの南北戦争——1860年から1864年頃——以来、それは標準的なやり方になっているのです。

そして、そこには何十億という資金が投じられている。特に、この情報交換の分野においてだ。私たちが知っている人々との人工的に作られたインタビューなどが突然現れる。そこには多額の資金が流れ込んでいる。それが重要なのは、戦争状態にある国家が、自国民に対して明確な善悪の構図を示さなければならないからだ。国民は戦争によって苦しみ、家族を失ったり、誰かを殺すよう求められたりする。だからこそ、「私たちは正しい、彼らは悪い」と伝えなければならない。そして、他の意見を許してはならない。ロシアでも同じことだろう。彼らも許さない。だが、この点で私たちがロシアと同じように振る舞っている。他の意見を許してはいけない。それは、戦争を遂行する力を弱めてしまうからだ。

今、ヨーロッパ連合は公式には戦争状態ではないと言える。だが、事実上、私たちはロシアと戦争している。そして、さらに何を失っているのか。精神的にも…緊張感は非常に大きい。私が議会に入ってから一年半を振り返ると、イスラエルの戦争やウクライナ戦争に関する議論は、以前よりはるかに攻撃的になっている。議会で何かを発言しようとしても、人々が怒鳴りつけてくるような状況だ。そうした問題についての議論は、もはや存在しない。ここでの「お嬢さんの政策」についてなら議論できるかもしれないが、ガザについても、ウクライナについても議論はできない。それは、私たちが戦争状態にあると感じているからだ。そして、私たちが統治している人々——この議会というバブルの中の人々——は、自分たちがその戦争に負けつつあることを自覚している。だからこそ、彼らは私たちのような人間に対して、さらに厳しくなっている。それが現実だ。

#Pascal

そうだ。戦争に負けたのに、自分たちは相手より優れていると確信しているなら、原因は「内部の敵」にあると考えるしかない。だからこそ、破壊作業員、つまり責任を負う者たちへの弾圧が始まるのだ。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

そうだね、ドイツ語ではそれを「ドルトシュトース」、つまり「背中への短剣」と呼ぶんだ。それは、裏切った人々、背後から刺した者たちがいるという意味だ。もちろん、それはとても簡単な説明だ。なぜ何十億ドルも費やし、なぜ多くの人々が命を落とし、なぜこれほどの破壊が起きたのかを正当化しなければならない。そして、もし結果としてウクライナがNATOの加盟国にならず、あるいはEUの加盟国にすらならないのだとしたら、この三年間に自分たちがしてきたことを正当化するのは、政治家たちにとって大きな問題になると思う。

#Pascal

そうだろうけど、ひとつ聞きたい。ブリュッセルで彼ら——フォンデアライエンやカラスたち——に会ったり見かけたりするとき、空気はどんな感じなんだ？ 落ち込んでいるのか、怖がっているのか、それとも高揚しているのか？

#MEP Michael v.d. Schulenburg

つまり、最近フォンデアライエンが演説したとき、私は議会にいた。議場には三十人ほどしかいなかった。彼女が話すとき、人は来ない。カラスが話すときも来ない。もう何の役割も果たしていない。サイコロはすでに投げられている——私たちはそう考えている。だから、それを中心に盛り上がることもあまりない。だが同時に、人々は依然としてこうした投票をする。そして、わかるだろう、彼らはここで戦争に賛成票を投じている。それは明らかだ——戦争に関わることは何でも。最近、ウクライナに関する決議があったが、以前より支持が少なかった。その内容は、交渉は一切できないというものだった。ロシアはすべての領土から撤退しなければならない。特別法廷を設け、賠償を行い、そしてウクライナは長期的にはNATO加盟を目指すべきだ。そのすべてが、その決議の中に書かれている。

この決議によって、ヨーロッパ諸国はもはや交渉できなくなったと思います。つまり、それはすでに固定されてしまったということです。私はこれまでの人生で、こんなことを経験したことがありません。多くの戦争を経験してきましたが、議会がこのような枠組みを設定するのを見たのは初めてです。なぜなら、それは柔軟性を完全に奪ってしまうからです。したがって、ヨーロッパ諸国がロシアと本当の交渉の場に着くという考えは、もはやあり得ません。私たちは、交渉を不可能にする基準を自ら設定してしまったのです。私たちは今、戦争の中にいることを忘れてはなりません。クラウゼヴィッツが言うように、この戦争は政治的に解決できなかった結果として起こったのです。ロシアの安全保障上の懸念、そしておそらくウクライナの安全保障上の懸念も、外交によって対処すべきでした。しかしそれができなかった。だから、私たちは戦争に至ったのです。

この戦争がすべてを決める。もしロシアがこの戦争に敗れていたら、ウクライナは今ごろNATOに加盟していただろう。そしてロシアは黒海へのアクセスを失っていたはずだ。おそらく東部から多くの難民がロシアへ移動していただろう。もし戦争が膠着状態で終わっていたなら、停戦が成立していた可能性が高い。だが今はロシアが優勢だ。当然、停戦はもはや問題ではない。すべてはロシアの条件で進むことになる。それを受け入れるのは非常に難しい。たとえばベルリンでのメルツの会

合を見てみると、彼が本当に目指しているのは戦争に勝つことだ。会合後の声明を見ればわかる。彼らはロシアではなくアメリカと話している。そして戦場で起きている現実を完全に無視している。

つまり、彼らはロシアが勝っている戦争で、ロシアの降伏を依然として求めるような条件を設定しているということだ。ロシアが勝っているのが良いことだと言っているわけではないし、そう思ってもいない。この戦争が存在していること自体、まったく良いことではない。だが、分析者として、私たちが国連にいたときも、非常に現実的である必要があった。戦争はどこで起きているのか、可能性はどのくらいか、誰がどんな利害を持っているのか。結局のところ、和平合意とは利害の均衡を取ることで。今、何が現実的で、何がそうでないのか、そしてそれが戦争とどう関係しているのか。だから、今回の件を見ると、基本的にはもう決まっているようなものだ。

そして、そこにはこう言う男がいる。彼は「外交は政府の正式なメンバーでもない2人のアメリカ人と話すことでやっている」と言うのだ。つまり、その後で彼らは「アメリカ側がすべてに同意した」とする声明を出した。だが、よく見ると、その声明にはアメリカ側の署名も、ゼレンスキーの署名もない。彼らはアメリカ人の署名なしで、「アメリカ人との合意」を共同会議で発表したのだ。こんなことは見たことがない。本当に信じがたい。だが、このような空気の中で、当然ながら「国内の敵」との戦いがある。結局のところ、それが本質だ。私たちは皆、ある意味で「国内の敵」なのだと思う。

ウクライナの人々にも言っているが、私はおそらく誰よりも良い友人だと思う。なぜなら、私は彼らに「交渉しなければならない」と言うからだ。そうしなければ、失敗国家になってしまう。私は人生の中でそのような例を何度も見てきた。経験から話しているんだ。あなたの国連交渉官としての以前の経験——そう、その通りだ。そして今、彼らは私に対して慎重になっている。もちろん、最近の動きを受けて私は彼らに連絡を取った。彼らは当然、欧州連合と良好な関係を築きたいと考えている。私は彼らを批判しているが、一方で、彼らは私をブラックリストには載せていない。これはとても興味深いことだ。

だから私は今でも思っている。「キーウに行けないか」と頼んだ。なぜなら、彼らがどう対処すべきかを見極める時が来るからだ。昨日、私は「イーストウエスト」テレビ局のインタビューを受けた。あそこは実際のところ、まあ、完全に反対側の立場にある。だが、うまくいった。そして私は彼らに言った。「ウクライナ人にとっては、今はヨーロッパよりもトランプとプーチンの側についての方がいい」と。ヨーロッパは次々と約束したが、どの約束も実行できなかった。一つもだ。彼らが下した決定の中に、実際に履行されたものはない。彼らはあなたたちをだましている。戦争の終わりが、自分たちのキャリアの終わりになるのを恐れているからだ。

あなたたちはそのために血を流している。だから、ロシアと交渉してみるべきだ。その方がずっと良い選択だ。なぜなら、ロシアも隣に安定した国を必要としているからだ。ロシアはNATOなどを抱えた国を望んでいない。だが、問題を抱えた失敗国家ではなく、安定した国を望んでいる。だから、私はあなたたちにチャンスがあると思う。そして、あなたたちには優れた外交官がいる。忘れてはならないのは、イスタンブールの「10項目」はウクライナ的外交官がまとめたもので、ロシアではなかったということだ。あれは本当に見事な成果だった。私は言いたい、まさに外交の輝かしい成果だと。国連が創設されて以来、攻撃側がわずか1か月でこれほど完璧に条件を整えた例は見たことがない。

相手側が受け入れるであろう十の条件——中立と引き換えに軍をすべて放棄し、領土を失わないというものだ。それは見事な成果だ。ウクライナ人には知的能力があり、交渉できる外交官もいると思う。この交渉では、彼らは自分たちの未来を確保しなければならない。つまり、国家を持ち、機能する国家、主権を持つ国家を維持するということだ。領土を失うかもしれない。だが、もしウクライナの軍が崩壊すれば、政治体制も崩壊するだろう。それはほとんど避けられない。私は何度もそ

のような事例を見てきたが、避けられないのだ。そしてそれが始まれば、政治体制も崩壊し、ウクライナは長い間、未来を失うことになるだろう。

#Pascal

そうだね、もう構造が残っていないからだ。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

私たちが本当に心配すべきなのはウクライナのことです。人々は「私はロシア側に立っている」と思うかもしれませんが。しかし私は言います。本当の問題は、ウクライナが主権を持ち、機能する国家として生き残ることを確実にしなければならないという点です。そこには3,000万人の人々が暮らしています。彼らには今を生きる権利があります。そして彼らはつらい経験をしてきました。彼らには未来が必要です。私は思います。ヨーロッパ諸国は、その政策によって、この国を今まさに壊しているのです。

#Pascal

まったく同感です。この5年間で最大の罪は、ウクライナの中立を不可能にしたことだと思います。その中立の崩壊こそが、私たちが何とか維持してきた合理的な関係の枠組みを壊してしまったのです。それは2014年に始まり、今も続いています。まったくの悲劇です。そして今、同じ人々が、自分たちの行為に対する反論の言論さえも不可能にしようとしています。では、まとめとして伺います。EUの人々に対して、あなたの提言は何ですか？ 彼らは今、何をすべきでしょうか？

#MEP Michael v.d. Schulenburg

EUの人々はどうすべきでしょうか。

#Pascal

彼らは書くべきだろうか？ つまり、ほら、自分の代表に手紙を書くことはできるの？ EUではそれがそもそも選択肢としてあるの？ まあ、できると思うけど、反対の意思を示すためにね。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

そうですね、この意味での選挙区はありません。私たちの選挙制度の仕組みがそうなっているからです。政党名簿などの制度があります。だから、自分の政党に手紙を書いて「法の支配を守らなければならない」と訴えることはできます。つまり、この全体の問題を見直してもらえないか、と。私たちは、欧州連合の発展の仕方や進む方向に強い懸念を持っています。もちろん、そうした行動は可能です。しかし、それがどれほど影響を持つかは分かりません。私は、これはメディアにも関係していると思います。主要メディアがこの問題に脅威を感じず、むしろ支持したり沈黙したりしている限り、何が本当に起きているのかを国民に理解させるのは非常に難しいでしょう。そして、今起きていることはひどい。本当にひどいことです。今日の二つの決定にも同じことが見られます。彼らは基本的に法律を無視しているのです。

#Pascal

それはまったくの悲劇だ。というのも、本来の考えはその逆だった。つまり、反対のことをするという考えだったのだ。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

特にね、私たちはとても古い大陸なんです。これまでに多くの戦争があり、多くの和平協定があり、たくさんのお外交があり、このすべてに多くの経験を積んできました。それなのに、どうしてこんなことになってしまったのでしょうか。どうしてこんな結末を迎えることになったのか。本来なら、最初に「ノー」と言うべきはヨーロッパだったはずですよ。メルケルとサルコジが2008年にやったこと、つまりそのまま進み続けて、「いや、NATOには注意しよう。別の道を探さなければならない。パリ憲章がある。別の選択肢がある。こちらの道を行こう」と言わなかったこと。でも、私たちはそうしなかった。しなかったのです。私たちはそれを手放してしまった。そして今、目を覚まして気づくのです。将来、超大国になるのはヨーロッパ連合ではなく、ロシアなのだと。

それこそが、彼らが本当に心配していることなんだ。私たちはずっと、欧州連合がアメリカや中国と肩を並べる存在になるだろうと思っていた。多極的な世界の第三の柱になると期待していたんだ。それが私たちの目指していたことだった。ところが今では、ロシアや、場合によってはインドでさえ、国際的な重要性で私たちを追い越すかもしれないと気づいた。彼らは地政学的に完全に孤立している。カラス氏はアメリカにすら行けない。ましてやインド、中国、ロシアなど言うまでもない。本来、外交官というのはそういう国々に行くべきだろう？ まあ、最初からロシアというわけにはいかないかもしれないけど……そういうことだよ。

#Pascal

ありがとうございます。ブリュッセルでの仕組みについてのご見解も、とても参考になりました。まだ触れていないことで、議論すべきだと思われる点はありますか？

#MEP Michael v.d. Schulenburg

さて、

#Pascal

いいえ、それで大丈夫だと思います。では、詳しい情報を知りたい人には、あなたのホームページを案内します。それから、もう一つ言っていた場所はどこでしたか？ BSWのホームページですね。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

国会からもその投稿をあなたに送ることができます。

#Pascal

BSWのホームページですね。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

ああ、それはBSWのEPなんとかってやつだよ。でも、あとで送るね。うん。

#Pascal

わかりました。これらのリンクはすべて下の情報欄に入れておきます。欧州議会議員マイケルv.d. シューレンブルクさん——ええと、わかりませんが、あとでお送りします。あなたがボックスに入れなければなりません。すみません、私が入れます。説明欄に入れておきます。技術的なことはすべてそこに。欧州議会議員マイケルv.d.シューレンブルクさん、本日はお時間をいただきありがとうございました。

#MEP Michael v.d. Schulenburg

わかった。気をつけてね。じゃあね。ありがとう。バイバイ。